

誰もが内に秘める欲求

文化活動は欲求の一つです。食べたい、寝たいと同じく創作したいという欲求そのものです。アーティストやクリエイターにとって創作できない状態が続くとフラストレーションがたまりやすくなります。文化活動は生活の中になくしてはならないもので、人間なら誰もが体の内に秘めるものです。それを表現できる環境があるか、文化と触れ合う環境があるかが重要です。そうした環境をつくるためにも「VONTEN」を設立しました。ここを新たな文化の拠点として、アーティストやクリエイターを支援していきたいと思っています。



合同会社VONTEN
CEO 金田 研人さん

アートの拠点として2023年4月、赤れんがパークに「VONTEN」を設立。文化芸術活動を支援する

育み育てるもの

文化とは急に発生するものではなく、育んでいくものだと思います。文化は英語で culture。これは cultivate からきています。cultivate は「耕す」という意味。耕すことで芽が出て、木になって、実になる。自分たちで種をまいて耕すことでカルチャーができます。自分たちの思いを耕してきたことで今の私たちがあり、舞鶴の魅力にもつながっていくと思います。舞鶴の魅力の一つとしてパフォーマンスを続けられるよう、今後も「耕し」続けていきたいと思っています。

LA CLASSIC
YOSHI. さん (右)
YU-J さん (左)

フリースタイルフットボールで世界大会優勝を誇るコンビ。多彩なパフォーマンスで観衆を魅了する



特集

その先の幸せを描く

文化の力

日々の暮らしの中で心豊かに感じるのはどういったときですか。旅行をしているとき、スポーツをしているとき、文化活動にいそむるとき、人によって「心豊かに感じる瞬間」はさまざまです。今回はその中で「文化」について取り上げます。国の文化芸術振興に取り組む文化庁も今年3月、東京から京都に移転してきました。共に「文化」について考えてみませんか。



あなたにとって文化とは何ですか？

まちで聞きました

私にとっての文化



文化を通してどうありたいですか？

人の心を動かすもの

昨年度「アート・プログラム・デリバリー」で箏にチャレンジしました。難しかったですが音楽ってすてきやなと改めて思いました。小さいころからピアノや絵を描くことを続けていて、今では日常にあって当たり前でなくなると日常が少し寂しくなります。また、音楽や芸術は人の心を動かす、すごいものだと思います。コンクールでよい成績をとることも目標の一つですが、私たちの演奏を聞いた人、作品を見た人の心を動かす演奏、作品作りをしていきたいです。



城南中学校3年
高岡 優衣さん (右)
嵯峨根 小遥さん (中)
城南中学校2年
面垣 和葉さん (左)

生徒会役員を務める。嵯峨根さん、面垣さんは吹奏楽部。高岡さんは美術部に所属する

日常を楽しくし、息抜きにもなる

私にとって一番身近な文化は箏曲です。小さい頃から母が箏を弾いているのを見てきて、小学1年生の頃に箏を始めました。同じ曲でも人によって弦の触り方で音色が変わるので奥が深く、弾いている瞬間はとても楽しいです。受験勉強で一度箏から離れましたが、時間が経つとまた直ぐに弾きたくなりました。日々、学校の勉強や部活のサッカーで疲れてしまっていますが、自分の好きなこと、趣味があることは大切だと思います。好きなことに出会えてよかったです。



福知山高校1年
福田 育絆さん

市内在住。箏を始めて10年、先生のもとで稽古し全国コンクールやコンサートに出場する

文化の力で心を豊かに、まちを元気に

今日の社会では、経済的な豊かさが、必ずしも心の豊かさをもたらすものではありません。心豊かな生活を送るためには、文化の力も必要です。文化は、人々の暮らしに潤いや喜びをもたらす、時には生きる力を与えてくれます。そして、豊かな感性を育み、新たな創造を育みます。

また、この土地で生まれた文化が、育まれ、受け継がれることで、ふるさとへの誇りや郷土愛を醸成します。これら文化を生かしたまちづくりを進めることにより、個性豊かな魅力あるまち、にぎわいのある元気なまちを創造することができそうです。

文化は人々の生活、今後のまちづくりで多くの役割を果たします。文化の力で人々の心を豊かにし、まちを元気に、魅力的にするには、行政だけでなく企業や民間団体、そして市民一人ひとりが文化を支える担い手となって、文化を振興していくことが大切です。